



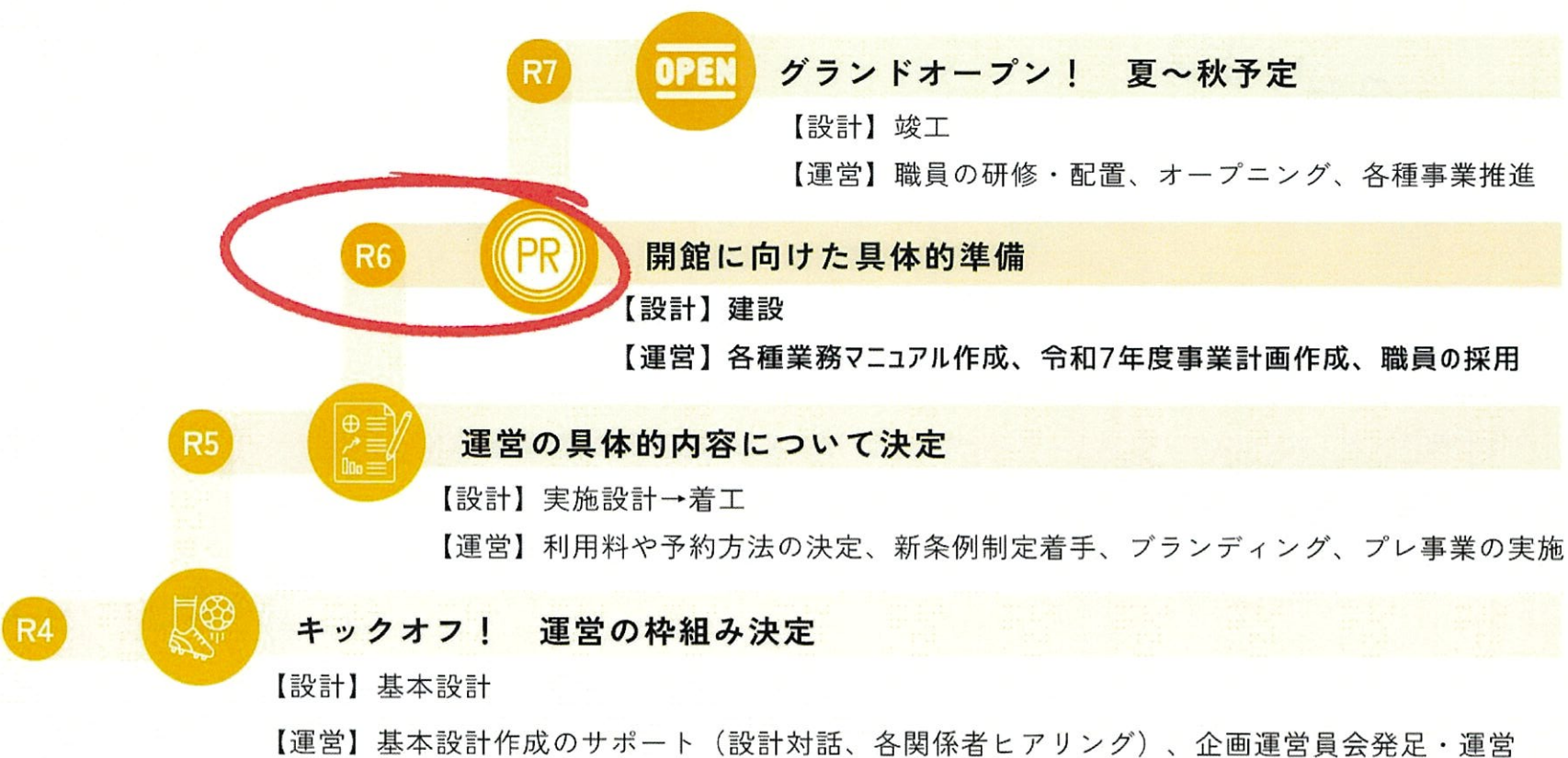
久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター 運営評価委員会

令和7年7月18日(金) 10:00～

久御山町役場 議会棟 特別会議室

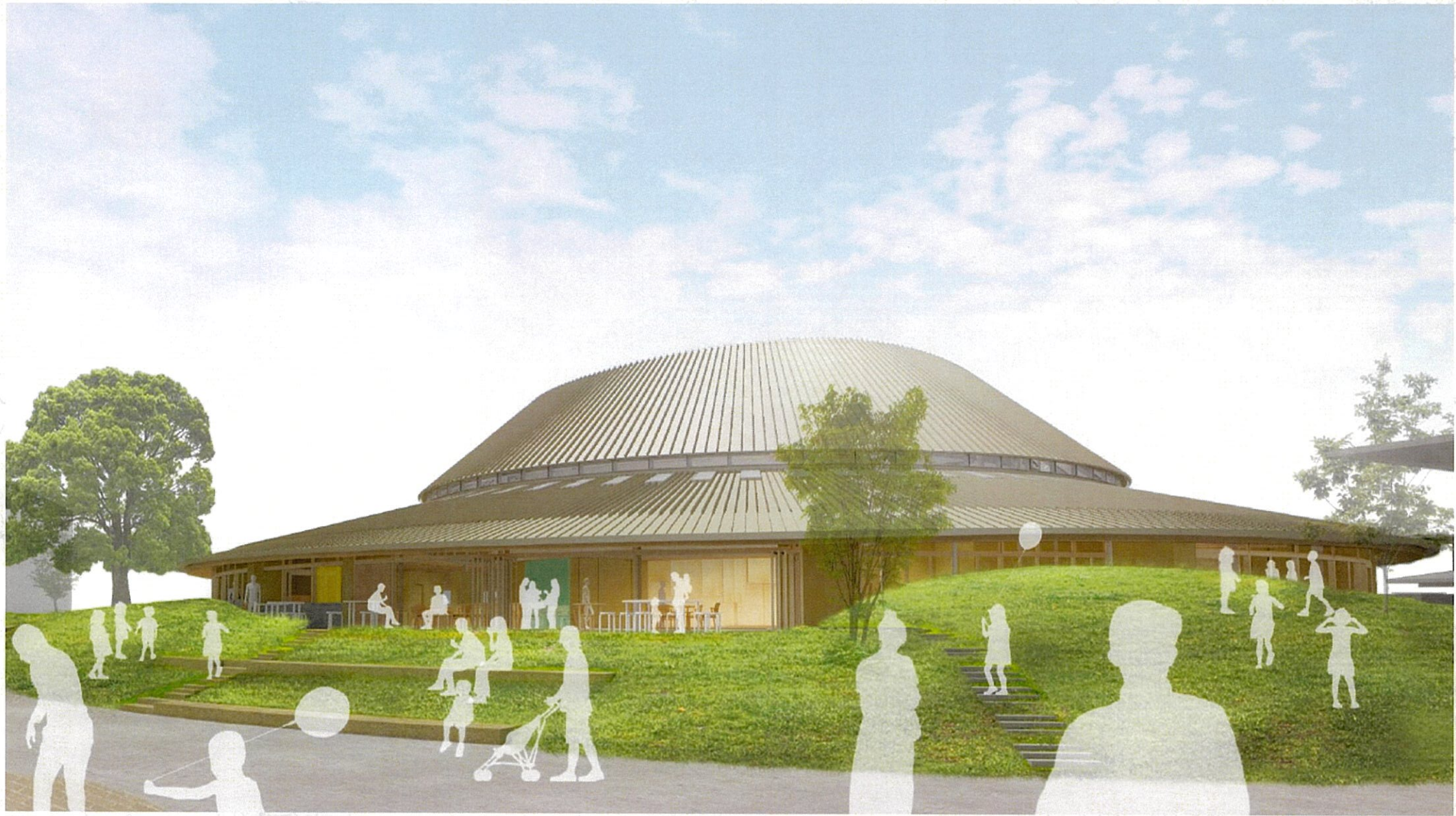


開館準備期間の業務推進の流れ



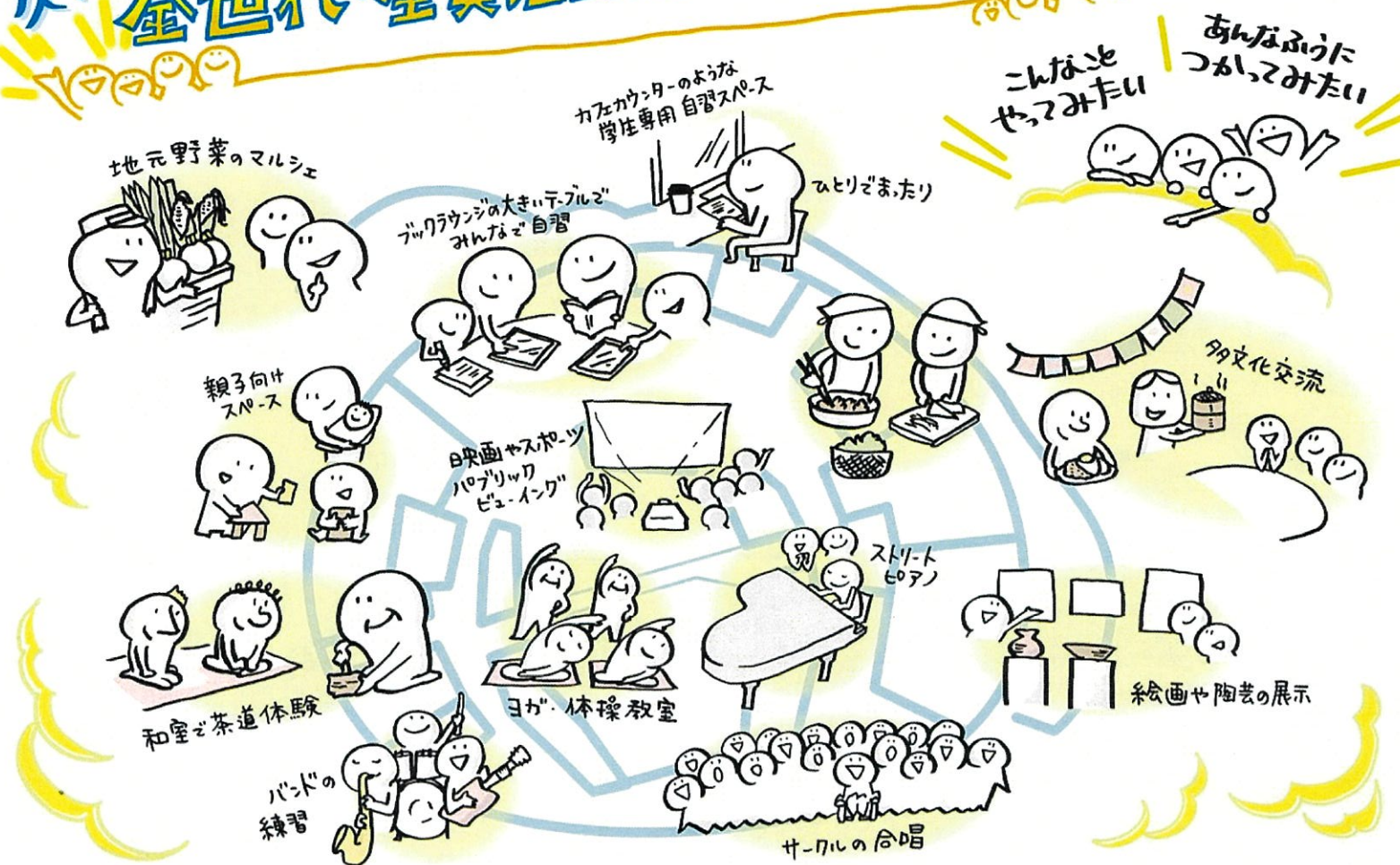


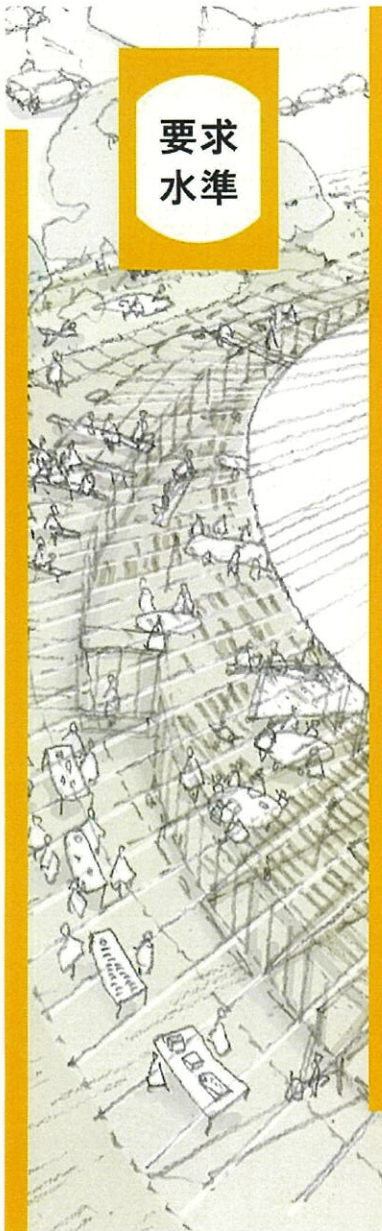
開館準備業務の 令和 6 年度報告及び 令和 7 年度計画について





久御山町 金世代・全員活躍まちづくりセンター



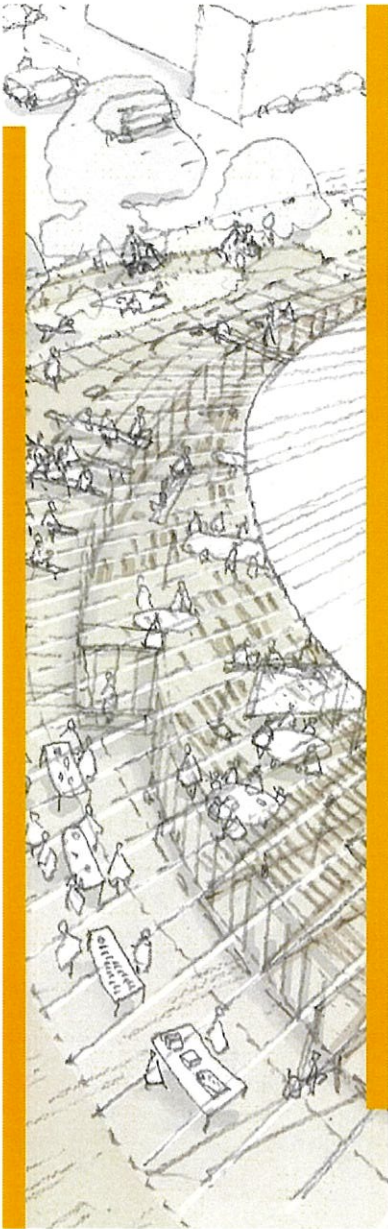


要求 水準

【参照資料】「第4 要求水準」

1 開館準備業務

- ①事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。
- ②事業者は、運営方針をはじめ、必要に応じ各種業務マニュアルを作成し、町の承認を得ること。
- ③施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。
- ④事業者は諸室構成等について提案し、町の承認の下、これらについて変更できるものとする。
- ⑤開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。
- ⑥町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。
- ⑦本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。
- ⑧町では、住民との意見交換会の設計対話は2回を予定している。
- ⑨事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。発行回数は3回程度とする。
- ⑩運営に関する議会等への各種説明資料の作成に協力すること。
- ⑪開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。
- ⑫開館に関する広報等を行うこと。
- ⑬施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。
- ⑭業務に必要な備品について、所有の帰属先、費用の負担、管理方法や運用方法等について町と協議の上、とりまとめること。
- ⑮その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。



1. 各種庁内協議

.....【R6 報告】

要求 水準

- 事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。・・・①
- 施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。・・・③
- その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。・・・⑮

当初 計画

実施設計が完了し、建設が始まるため専ら運営管理定例会を中心に推進していくが、適宜他部署との調整を行なっていく。

実施 内容

- (1)運営管理定例会を計23回実施した。
- (2)その他協議会・分科会としてブランディング分科会を計4回、備品協議会を計6回、舞台機構分科会を1回実施した。
- (3)上記の他、建築定例会に計20回オブザーバーとして出席した。

【事 例】

- ☐愛称の公募・選考やロゴ・イメージカラーの決定
- ☐施設全体の備品のリストアップと購入候補品の選定
- ☐舞台周り・諸室の照明や各種配線についての助言
- ☐療育専用スペースの仕様について所管課と協議
- ☐社会教育委員視察候補施設についての助言 など



1. 各種庁内協議

.....【R7計画】

要求 水準

- 事業者は本施設の設計事業者に対して意見や助言を行い、まちづくりセンターのコンセプトが十分に実現されるようにつとめること。・・・①
- 施設の設計に対して助言等を行うものとし、町、設計事業者との連携を密に行うこと。・・・③
- 運営に関する議会等への各種説明資料の作成に協力すること。・・・⑩
- 業務に必要な備品について、所有の帰属先、費用の負担、管理方法や運用方法等について町と協議の上、とりまとめること。
- その他、開館までに必要な内容について町と協議の上、決定し、実施すること。・・・⑮

R7 計画

引き続き運営管理定例会を中心に推進していくが、建築定例会や建築関係の舞台機構や外構などの分科会にも参加していく。また、適宜他部署との調整を行なっていく。

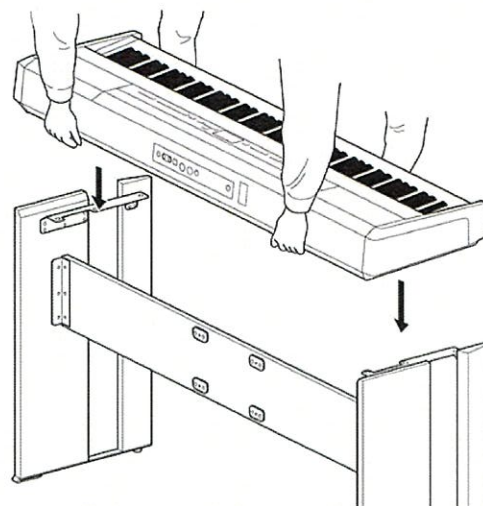
想定 内容

- (1)運営定例会を凡そ月2回のペースで実施する。
- (2)その他協議会・分科会として舞台機構分科会や外構分科会を実施する。
- (3)上記の他、建築定例会に引き続きオブザーバーとして出席する。

【想定事例】

- ☐ オープニングイベントやオープン強化月間についての協議
- ☐ 条例関係（利用料金、優先利用など）についての調整協議
- ☐ 開館後の指定事業・自主事業についての協議
- ☐ 貸館予約システムについての調整協議
- ☐ 設計・建築の確認・協議事項についての助言 など

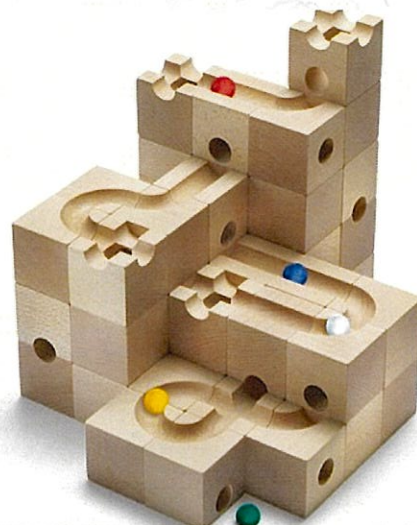
参考資料： 購入予定備品について一部紹介 ～音響関係（YAMAHA）



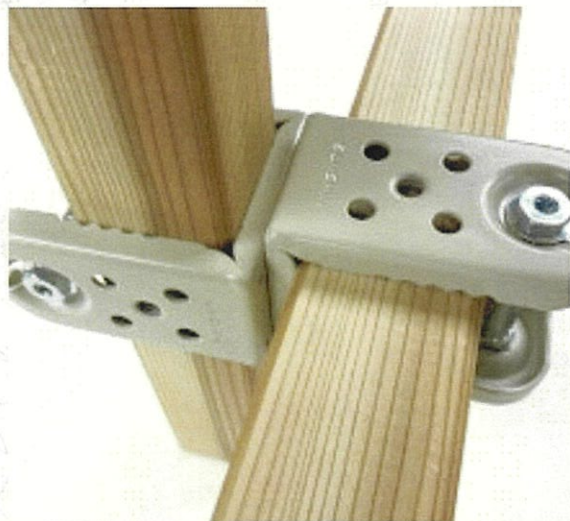
参考資料： 購入予定備品について一部紹介 ～親子スペース



参考資料： 購入予定備品について一部紹介 ～ブックラウンジ



参考資料： 購入予定備品について一部紹介 ～「つな木」



Reception 受付カウンター



Baby 授乳室



Cafe カフェ





2. 町民への当施設の理解促進【R6 報告】

要求 水準

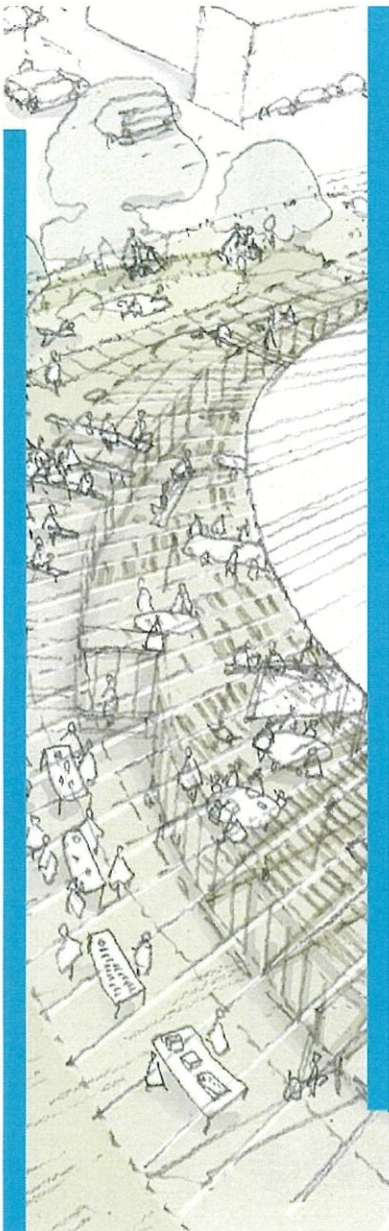
■町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。・・・⑥

当初 計画

令和5年度に引き続き開館後象徴的な事業となる「ミニくみ」や地域学「巨椋池学」関連のプレ事業を実施することで、センターの開館後のソフト面の理解促進を図っていく。

実施 内容

- (1)令和5年度末に運営ワークショップを実施して参加住民の声を参考に施設をどのように利用したいかというグラフィック・レコードを作成。これを令和6年度5月に建築仮囲いの広報シートとして大きく掲出し活用したり、全戸配布の「ニュースレター」に掲載することで町民の施設の理解促進に供した。
- (2)地域学「巨椋池学」について、対象となるプレ事業「凸凹梅林先生とゆく『巨椋池学』探訪まちあるきツアー」（10/6）内において、参加者のみなさんに説明を行った。
- (3)プレ事業「ミニくみ」のこども会議内において、こどもたち向けに建築模型を使ったり、庁舎5階から敷地を望みながら施設の説明を行なった。



2. 町民への当施設の理解促進

.....【R7計画】

要求 水準

■町は、本施設の整備内容について、住民の理解を深めるとともに、利用者である住民の意見を本事業の運営及び設計等に反映すべく、「設計対話」を開催するので、事業者は、この設計対話に出席し、設計事業者と共に協力し、必要に応じて出席者に対してアドバイスを行うこと。・・・⑥

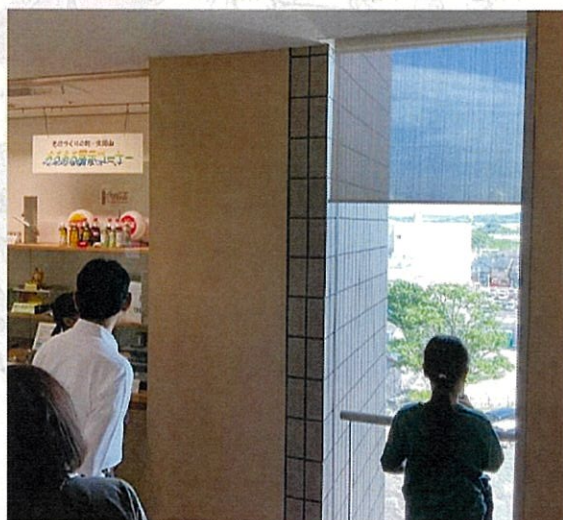
R7 計画

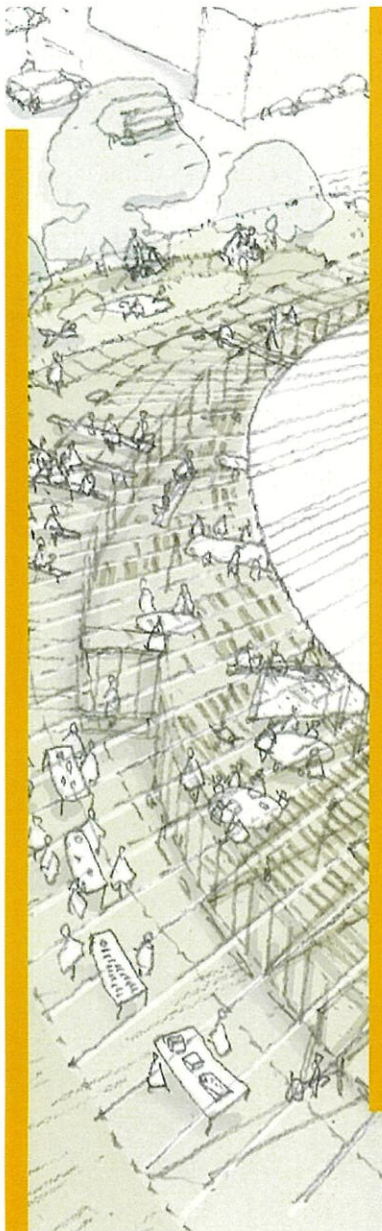
引き続き開館後象徴的な事業となる「ミニくみ」や地域学「巨椋池学」関連のプレ事業を実施することで、センターの開館後のソフト面の理解促進を図っていく。

想定 内容

- (1)「ミニくみ」をはじめとする年度内実施のプレ事業において、参加された住民に対して都度施設理解につながる説明を重ねていく。
- (2)開館年度を控えて町内各種団体や企業に直接お会いする機会を増やし、その際に施設の理解促進を図っていく。

参考資料： 仮囲い広報シート／「ミニくみ」時施設説明





3. 機運醸成と町民参加促進支援【R6 報告】

要求 水準

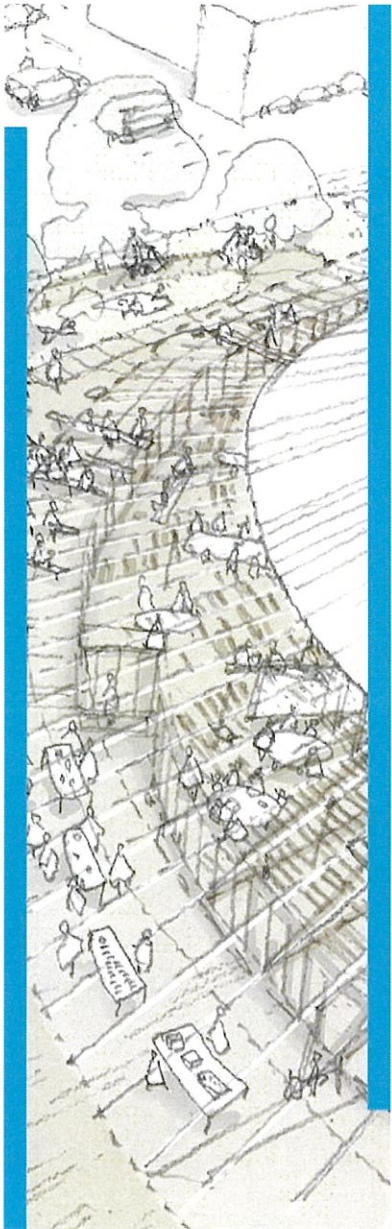
- 施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。・・・⑬
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。・・・⑮

当初 計画

企画運営委員会については、開館前プレ事業「ミニくみ」を中心に令和5年度に引き続き実践的な参画の形を推進する。
また、新たに建築現場の見学会の実施を予定する。

実施 内容

- (1)企画運営委員会を計8回開催した。
- (2)プレ事業「ミニくみ」（12/8）の実施に向けて事前準備として計6回の「こども会議」を開催した。「こども会議」では企画運営委員がおとなスタッフとしてこどもスタッフたちの相談に乗りつつこどもたちの自主性を引き出すことに努め、本番に至るまでサポート役に徹した。
- (3)地域連携の一環として、京都文教大学の橋本教授が主催される宇治・城陽・久御山エリアのこども記者クラブが「ミニくみ」本番時に参画した。
- (4)予定していた建築現場の見学会については、内覧が可能な状況まで見送った。



3. 機運醸成と町民参加促進支援【R7計画】

要求 水準

- 施設の運営に関するまちづくりセンター企画運営委員会（仮称）の事務局の運営を行うこと。・・・⑬
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。・・・⑮

R7 計画

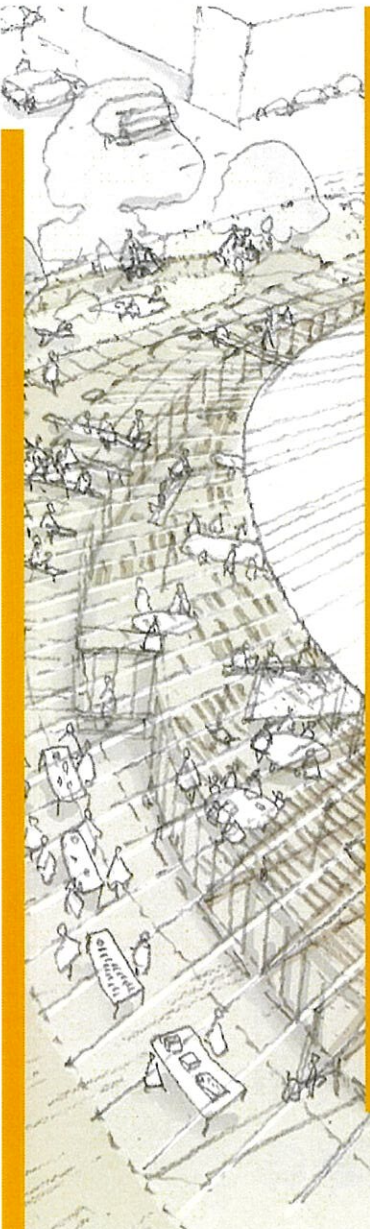
開館後の事業に関連し、町内企業や団体にも事業への参画・協力を積極的に呼びかけていく。また、「ミニくみ」の大人スタッフについては企画運営委員だけでなく公募による一般住民の参画を呼びかけていく。

想定 内容

- (1)企画運営委員会をプレ事業関係以外でも開催し、企画運営委員の活動機会を増やす。
- (2)プレ事業「ミニくみ」（12/8）の実施に向けて事前準備として計7回の「こども会議」を開催する。「こども会議」では企画運営委員がおとなスタッフとしてこどもスタッフたちの相談に乗りつつこどもたちの自主性を引き出すことに努め、本番に至るまでサポート役に徹することになるが、このおとなスタッフについて令和7年度は一般公募により企画運営委員外の住民のみなさんの参画も募っていく。
- (3)地域連携の一環として、引き続き京都文教大学様等との連携を図っていく。

参考資料： 「ミニくみ」こども会議 計6回実施





4. ブランディングと広報

.....【R6 報告】

要求 水準

- 事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。
発行回数（※開業準備期間中）は3回程度とする。・・・⑨
- 開館に関する広報等を行うこと。・・・⑫

当初 計画

ブランディングについては、愛称の公募を中心に推進し、ロゴやイメージカラーの選定を行う。
広報については、HPなど広報媒体を増やしてこれを適宜展開していく。

実施 内容

- (1)ニュースレターを5月に発行し、町広報紙への折り込みを実施した。
- (2)ブランディングの一環として施設の「愛称」を全国公募し選定を行った。
その後、愛称の決定を受けてデザイナーによる「ロゴ」・「イメージカラー」の制作を経てこれを決定し、文化祭の際に発表、「ロゴ」のポストカードを配布した。
- (3)SNS（LINE、Instagram）に続き、HPの運用を当初の予定より早めて4月から開始した。
- (4)プレ事業やブランディング（愛称募集）について、HPによる広報・募集を行った。
- (5)建築現場の仮囲い2ヶ所に建築パースやグラフィック・レコードを掲載した広報シートを施工し、来庁者に対する広報に活用した。



4. ブランディングと広報

.....【R7計画】

要求 水準

- 事業者は設計事業者と協力して、多くの住民に周知できるニュースレターの作成を行うこと。
発行回数（※開業準備期間中）は3回程度とする。・・・⑨
- 開館に関する広報等を行うこと。・・・⑫

R7 計画

ブランディングについては、愛称・ロゴ・イメージカラーが決まったのでこれを展開していく。
広報については、従来の手法に加えて秋頃をめどに庁舎懸垂幕による新たな広報を予定している。

想定 内容

- (1)ニュースレターを発行し、町広報紙への折り込みを実施する予定であるが、竣工・開館時期と重なることが予想されるため発行時期や形式については町と協議の上実施する。
- (2)愛称・ロゴ・イメージカラーを使用したブランディングの展開については、広報物や名刺などに活用することで地道に普及を図っていく。
- (3)開館を控えてSNS（LINE、Instagram）やHPによる情報発信を徐々に増加する。
- (4)開館日が決定したタイミングで庁舎懸垂幕による広報を開始する予定。府道15号線（宇治淀線）を往来する車両からも認識しやすく町内外への広報に寄与するものと思われる。

参考資料：「ニュースレター」vol.2

久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター ニュースレター

News Letter

みなさまこんにちは！ 久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター開館準備業務において運営管理を担当しておりますアクティオ株式会社です。設計管理を担当する株式会社NHAさんと二人三脚で2022年4月から開館準備業務を推進しております。今回は、2023年の業務の一端をみなさまにお届けします。



▶運営ワークショップ[®]開催(3/9)



今まで回を重ねてきた設計対話や今回のワークショップでのみなさんの「センターでこんなことをやってみたい」という思いがグラフィック・レコードになりました！

設計が完了し建築開始を待つ段階に入った3月9日、まちづくりセンターを住民のみなさんがどのように活用したいのかをグラフィック・レコードの手法を使って参加者から意見を伺い、あらためてカタチにしてみました(上記)。

今回は初めて大人に混じって中高生や大学生も参加し、世代を超えての意見の交換が実現しました。学生からSDGsや多文化交流のお話が出てくるなど大人のみなさんも感心しきりの会になりました。

みなさんも上記グラフィックレコードを参考に開館後の活用をイメージしてくださいね。

▶プレ事業①「ミニくみ」開催（11/3）

ドイツのミュンヘン発祥で、こどもの主体性を引き出す疑似社会体験型事業として日本でも広く親しまれている「こどものまちミニ〇〇」を久御山町でも今後実施していきます。「こどものまちミニ久御山」、略して「ミニくみ」の愛称で、初代こどもスタッフ11名と企画運営委員のあなスタッフのみさんが協力して、開館前限定版で今回は「まちのがっこう」内で開催した。



▶ブレ事業②「巨椋池学」開催（3/31）

開館後の事業のひとつの柱として地質学としての「巨跡池学」というものを据えていく予定です。地質学とは人文・社会・自然科学を横断する視点とフィールドワークなどによる主体的な視点で地域にアプローチしていく学問です。今回は開館前の第1回目として、NHKのプラタモノなどでお馴染みの梅林先生による東一口集落のまあるきを行ないました。お陰様でたいへん好評で定員を倍以上上回る応募をいただきました。



左：設計説明 右：こども&おとなスタッフによる制作風景



11月の本番準備のために計3回(7/26,8/10,10/29)のこども会議を開催しました。第1回こども会議では、建築士さんから新しくできる施設の説明を受け、その後、京都文教大学のみなさんにも加わっていただき、みなお店をするか話し合いました。



▶ 広報の展開

昨年引き続き、イベント毎にその都度「町広報」に折込チラシを入れるなど町内全世帯に情報が行き渡るように努めております。

夏に役場1階ロビーに1/30の建築模型と特大パネルによる広報コーナーを新たに設置しました。秋からはLINEとInstagramによる広報を開始しております。

ぜひ下記からご登録をお願いします。



参考資料： ロゴ・パターン



久御山町全世代・全員活躍
まちづくりセンター



幼児園ぼうし



シルクハット



中折れ帽



魔女帽子 (ハロウィン)



キャップ



麦わら帽



ベレー帽



サンタ帽子 (クリスマス)



参考資料：「ニューズレター」vol.3 / 名刺



久御山町 全世代・全員活躍まちづくりセンター

NewsLetter

Vol. 3
2024年度報告
Vol.1 2022年度報告
Vol.2 2023年度報告

みなさまこんにちは！ 久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター開館準備業務において運営管理を担当しておりますアクティオ株式会社です。この一年間の運営管理業務の一端をみなさまにお届けします。
2024年度は前年度に引き続き様々な開館準備業務を推進しつつ、新たに施設内の細かい仕様について設計・建築との協議や施設備品として必要なものの選定等を行いました。その中からいくつかをご紹介します。■■■

トピックⅠ 施設愛称とロゴが決まりました！

1. 施設愛称の公募・選定

久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター

グランハット

2024年春から施設愛称の一般公募を開始し、全国から735点のご応募をいただきました。応募作からさらに候補を絞り住民の皆様に投票をいただいた上で秋に左記「グランハット」に決定しました。鎌倉市在住の方の作品で建物外観が「大きな帽子」のようだということが由来になります。今後は「グランハット」の愛称でお呼びいただけたらと思います。また、施設愛称とあわせてグランハット主ホール名を「おくわくホール」に決定しました。■■■

さらに愛称にちなんだロゴをデザイナーが制作しました。
①「大きな帽子」のイメージと水害対策で12mの盛土をすることから施設が立地する微高地（丘）のイメージや、さ知り合いを見かけたら帽子をフツと持ち上げてあいまつをするようなコミュニケーションの発想を基に、外には「元気に呼びかける」内には「人を迎え入れる」といった活動的なイメージでデザインされました。左上のタイトルのパターンや左記横長のパターンのようにいくつかのパターンがあります。今後、住民の皆様に見てもらいたいです。■■■

2. ロゴの制作・決定

GRAND HAT
グランハット

プレ事業Ⅰ 「ミニくみ」2024年度版

2023年度からさらに発展した形で「ミニくみ」（「こどものまち〜ミニくみやま」の愛称）を12月8日(日)に実施しました。本事業は小学生が対象で、おとなたちはサポートに徹し、こどもたちの主体性を育むことを目指します。グランハット開館後は施設全体を活用して毎年クリスマス時期に実施する予定です。今年も実施しますのでお楽しみに！ ■■■



...おとなスタッフのみならず話し合いながら、何屋さんを聞くのから始まり、商品やお店づくりに至るまで事前の準備にあたる「こども会議」を7月から計6回実施しました。



...「こどもスタッフ」（「ミニくみ」のお店の運営者）20名と「こどもレジデント」（「ミニくみ」の住民）51名による「ミニくみ」当日の様子です。

プレ事業Ⅱ 巨観地学まちあるきツアー

2023年度にご好評をいただきましたNHKプラタモリなどでもお馴染みのノートルダム女子大学客員教授梅村先生による東一〇のまちあるきツアーを実施しました。■■■



...グランハット開館後に展開予定の「巨観地学」（地域学）に関連して、歴史地理や地学・生態を始める多岐な観点から東一〇についての先生の考察をお楽しみいただきました。

トピックⅡ SNS,HPの開設・ご案内

2023年度のSNS（Instagram、LINE）開設に続き、当初の予定より早くHPを開設しました。「ミニくみ」の様子なども掲載しておりますので是非ご覧下さい。■■■



久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター
グランハット開館準備業務プロジェクト

統括責任者
社会教育士

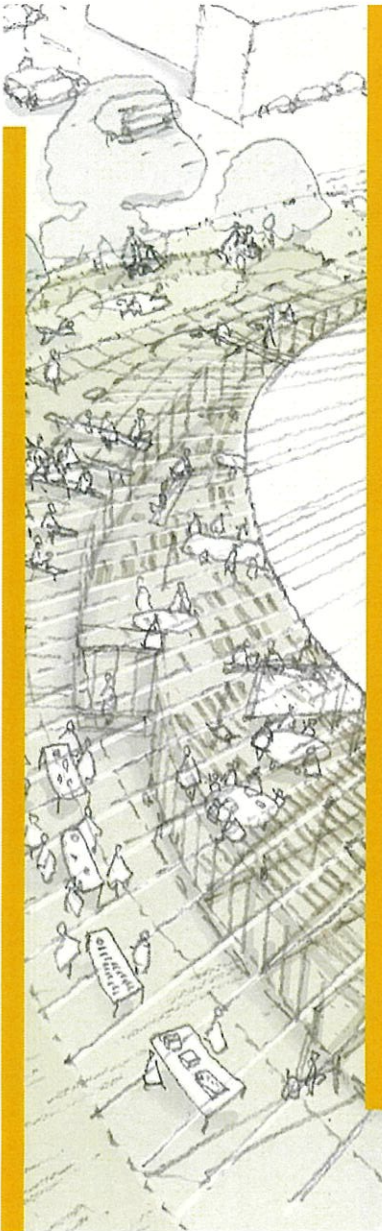
日 置 一 勝
HIOKI KAZUMASA



ACTIO アクティオ株式会社

〒532-0012
大阪市淀川区木川東 4-8-4
TEL: (06)6308-5720
E-mail: hioki_k@actio.co.jp
Mobile: 090-1234-5678
URL: https://www.actio.co.jp

■ お問い合わせ：生涯学習応援課 ☎ 075-631-9980・0774-45-3918 ✉ shogai@town.kumiyama.lg.jp ■



5. 業務推進・自主事業推進

.....【R6 報告】

要求 水準

- 開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。・・・⑤
- 開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。・・・⑪

当初 計画

業務については、建築の進捗、条例の策定、指定管理仕様書の策定に合わせた推進を予定している。各事業については、開館後の事業編成を視野に下準備を推進する。

実施 内容

- (1)各種業務委託予定事業者（施設管理、清掃、警備、舞台、カフェ等）と各部門について開館準備業務や開館後の業務について協議を進めた。
- (2)諸室や舞台周りなど施設内備品の候補を選定し備品リストの整備を推進した。
- (3)プレ事業として「凸凹梅林先生とゆく『巨椋池学』探訪まちあるきツアー」（10/6）、「ミニくみ」（12/3）を実施した。双方ともに開館後も継続予定の事業である。
- (4)副責任者が9月に着任し、開館準備業務に従事した。
- (5)統括責任者が、昨年度に引き続き「いきがい大学」継承企画や地域学（『巨椋池学』）関連講座の講師候補となる先生方の公演・セミナーを受講するなどして開館後の事業編成のための情報収集を中心に行った。

5. 業務推進・自主事業推進

.....【R7計画】

要求 水準

- 開館後の管理運営業務に関する実施計画等（催事計画等）を町等と調整しながら作成すること。・・・⑤
- 本施設の利用率や魅力向上等に資する意見については、町と協議の上、管理運営業務に適宜反映すること。・・・⑦
- 開館にあわせて人事配置、育成等を実施すること。・・・⑪
- 事業者は、運営方針をはじめ、必要に応じ各種業務マニュアルを作成し、町の承認を得ること。・・・⑫

R7 計画

業務については、建築の進捗、条例の策定、指定管理仕様書の策定に合わせた推進を予定している。各事業やオープニング計画について準備を推進する。また、可能なところからマニュアルの作成を順に進めていく。

想定 内容

- (1)各種業務委託予定事業者（施設管理、清掃、警備、舞台、カフェ等）と各部門について開館準備業務や開館後の業務について引き続き協議を進める。
- (2)プレ事業の2本柱である①「巨椋池学」から「まちと人をつなぐ土木の世界をのぞいてみよう！ ドボクのチカラ再発見ツアー 久御山ジャンクションの見方教えます」（9/12）と②「ミニくみ」（12/6）を実施するほか、新たに2事業を追加実施する。
- (3)統括責任者が、引き続き「いきがい大学」継承企画や地域学（『巨椋池学』）関連講座の講師候補となる先生方の公演・セミナーを受講するなどして開館後の事業編成のための情報収集を行うほか、開館を控えて具体的な調整を行っていく。また、連携していく町内外の団体等についても調整を行っていく。



「凸凹梅林先生とゆく『巨椋池学』探訪まちあるきツアー」10/6



参加者 計13名

【参加した感想】

- ・今まで以上に深く、一口のことを知ることができて良かったです。一口だけでなく、佐山のあたりもできたらいいのですが。
- ・一口の成り立ちから歴史を説明していただき、次回も検討して頂けたらと思います。
- ・同じ久御山町に住みながら、東一口は初めてで全く、知らないことづくめでした。大変良かったです。
- ・巨椋池があったことは知っていたが今回のツアーに参加しなければ知ることでもできなかったことばかりでした。梅林先生のお話のすべて（着眼点）がおもしろく私のような者にでもとても分かりやすくおもしろく、一緒に歩いてお話してくださるぜいたくな時間を心から楽しめました。梅林先生とぜひまた一緒に歩いて学びたいです。
- ・とてもよかった。路地一つとってもこんなに深く楽しむことができたのも、梅林先生の視点を教えていただいたからだと思います。



「ミニくみ」 12/8



こどもスタッフ・こどもレジデント計71名

【ミニくみに参加した感想】

- ・いろいろな店があって、買う側も楽しいし、お店側も楽しかった。(5年生)
- ・またちがうお友達とちがうおみせをだしたい。(2年生)
- ・おかしが予想以上にもらえたのと、働く内容が楽しかった。(5年生)
- ・こどもが作って営業しててすごいな、と思いました。こどもの成長のすごさを感じました。(6年生)
- ・さいしょはぜんぜんできなかったけど、さいごはいっぱいきてたいへんでした。次はもっといろいろなあそびを考えたいです。(2年生)
- ・最後に働いてくれた子に自分が景品で取ったあめをあげて、「ありがとう」と言ってくれたのがうれしかった。(4年生)
- ・もう1回してほしい。(3年生)
- ・妹に出店してもらいたい。(こども記者クラブ・中学生)



開館準備期間の業務推進の流れ

